

知名御多出横代表
知名 宏師

Hiroshi Chino

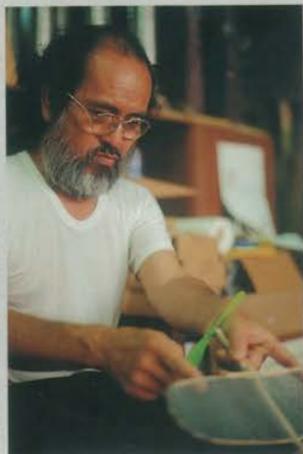
安村直樹 | 撮影・文
photographs & text by Naoki Yasunuma

III 太陽の藝術 Art of the Sun

音を芸術の域にまで高めた 沖縄メイドの音響機器

目の不自由な老紳士が「これをかけてもらえませんか」と持って来たのは、1960年代に録音されたヴィヴァルディの「四季」だった。曲が終わると老紳士は静かに立ち上がって拍手し、「そこに人がいる」と感動していたという。

その音響システムは画期的なものだった。音の歪みの原因であるハンダ付けの代わりに、銅を使い溶接することで歪みを解消した「溶接パワーアンプ」。驚くほどノイズが少なく、クリスタルでクリアな音が再生される。また、従来のスピーカーは聴く場所や置く場所を制約されたが、円錐形の反射板を取り付けることで音を全方向に広げ、どこで聴いてもステレオ効果が得られる「全指向性スピーカー」を開発。部屋全体がリスニング



ちな ひろし

1947年旧石川市生まれ。工業高校卒業後、オーディオ機器のメンテナンスの仕事を担当。1974年、長男の誕生をきっかけに独立。現在では日本をはじめ海外でも、知名オーディオのアンプとスピーカーは、マニアや音楽好きな人々に愛用されている。
■知名御多出横(ちなオーディオ)
コザ工場/沖縄市中央3-13-11 098-938-3994
那覇ショールーム/那覇市久茂地1-2-25
098-862-6222
<http://www.audio.co.jp>

ポイントになった。「音は目に見えないから苦勞しますが、目標はビートルズをどれだけ忠実に再生できるか。録音状態の悪い音源を、限りなく生音に近づけて聴きたい」
幼稚園の頃にゴム飛行機を作ったのがきっかけで、ものづくりに興味を持ち始めたという知名さん。中学生の頃にはゴミ捨

場から拾って来た米軍下げの部品で、真空管ラジオやステレオを独学で作っていたとか。

「ある伝で、マイルス・デイビスに聴いてもらえるチャンスがあったけど、その頃はとんがってたから別いいよと断ってしまった。惜しいことをしたと後悔しています。僕の音の基準は20年前に聴いた、1708年製の20億円もするというバイオリンの名器ストラヴィンスキの生音。鳥肌がたち、涙が出るほど感動したあの音を再現するためのシステムなんですよ」
夢は、このシステムがオーディオの基準になることと話す知名さん。音を作るのではなく本物の音を再生する。35年間音を追求し続けてきた知名さんの想いは、いまなお進化し続けている。



上/家族みんなで一つひとつ手作りしている。左/アンプはON/OFFスイッチと切り替えスイッチ、ボリュームだけ。10W×2アンプ「健」+8cmスピーカー (CDプレイヤー付き・20万円)。50W×2アンプ「調」+12cmスピーカー (53万円)。



カフェなどでは、ノイズが少ないからボリュームを大きくしても会話をさまたげることがなく、お客さんは普通におしゃべりできる。それが知名オーディオの凄さ。これまで音響技術で5件の特許を取得し、現在4件の技術の特許出願中。